

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 坪井 明彦	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 「ゼミ活動を通じた PBL 実践の効果と課題—学生の能力の伸長と言う点からの考察—」2015年1月、高崎経済大学地域政策学会『地域政策研究』vol.17 No.3</p> <p>本稿は、(株)リクルート北関東マーケティングとの産学連携プロジェクトの取り組み概要と学生の能力向上に関する効果の分析および課題を提示した。学生の能力向上については、学生自身の経験の少ない課題を与えることにより、学生の能力は向上する傾向がある。プロジェクトとしての成功は適材適所の役割分担が効果的であるが、学生の能力の向上、つまり PBL の効果という視点に立つと、適材適所の役割分担は必ずしも能力の向上に結び付かないことを示した。</p> <p>(2) ゼミ活動：正規の授業以外に PBL (Project Based Learning) に注力した。</p> <p>① 渋川市中心市街地活性化のための調査</p> <p>2008年から渋川市から受託しているプロジェクトであり、本年度は、</p> <ul style="list-style-type: none">・渋川市の名物「シブめし」の普及と商品化に向けた取り組み・「まちなかの賑わい創出」につながる事業の実践・「まちなかランチマップ」掲載店基礎調査 <p>を行った。(『平成 26 年度渋川市中心市街地活性化のための調査報告書』(平成 27 年 3 月) 参照)。</p> <p>② 大間々町商工会まちなか活性化事業に係る調査業務</p> <p>みどり市大間々町商工会の依頼で、大間々町の中心市街地の活性化のために、学生が大間々町中心市街地の活性化のために調査し、活性化案を提案するというプロジェクトを実施した。このプロジェクトは、2014年8月にスタートし、2015年2月10日に大間々町商工会において、会員約20名に対してプレゼンテーションを行った。非常に良好な評価であった(大間々町商工会まちなか活性化事業に係る調査報告書『大間々町民参加型まちなか再生プラン—新店舗展開と参加機会創出の提案—』(平成 27 年 3 月) 参照)。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>(3) 日本ビジネス実務学会における活動</p> <p>日本ビジネス実務学会総務・企画委員長(副会長)として、日本ビジネス実務学会の運営に尽力した。</p> <p>(4) 地域活性学会における活動</p> <p>編集委員(理事)として、学会誌『地域活性研究』の発行のために尽力した。</p> <p>(5) 日本地域政策学会における活動</p> <p>事務局次長(理事)として、学会運営のために尽力した。</p> <p>(6) 日本経営診断学会における活動</p> <p>理事として、学会運営のために尽力した。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>2015年度においても引き続き、ゼミ活動を通じた PBL に取り組むことと地域活性化に貢献するような教育・研究に取り組んでいきたい。</p> <p>引き続き、渋川市中心市街地活性化のための調査の他、「まえばし企業魅力発掘プロジェクト」に参加予定である。これは、富士通が所有する特許を活用し、学生が商品開発</p>	

を提案する（うまくいけば、地域の中小企業に製造・販売してもらおう）というプロジェクトであり、学生が実際に地元企業を訪れヒアリングをしたりして、商品化が可能かなどを調査するなど、実践的なプロジェクトである。これまでのPBL実践で得た知見を活かし、これらのPBLに取り組んでいきたい。